



秋冬ブロッコリー

やさいの里営農センター
営農指導員 初芝 浩

農業 テクニカル ダイアリー

Agricultural-work technical diary



秋冬ニンジン

山武経済センター
営農指導員 伊藤 統之



● 育苗

大苗育苗では、苗床を表②を参考に準備し、高さ1m程度程度の平畝に十分な散水をし、地温を下げてから播種します。発芽適温は25℃で、地温を下げるため黒寒冷紗を二重掛けします。本葉2枚時で寒冷紗一重、本葉3枚で除去します。

定植機を使用するセルトレイ育苗は128穴トレイを10坪当たり30枚用意します。専用鎮圧機で穴を開け、播種します。播種後は灌水し、新聞紙を被覆して風通しのよい屋内で、トレイの下に風が通るようにすき間をあけて置きます。発芽したら新聞紙を除去します。育苗期間中にプレバソフフロアブル5(100倍液)をセルトレイ1枚当たり0.5ℓを灌注することで、コナガヤハスモンヨトウの防除に高い効果が得られます。

● 品種選定

目標とする収穫時期や圃場条件から品種を選定します。早生品種では「ピクセル」「すばる」「ファイター」、中早生品種では「おはよう」、中晩生品種では「ブランドーム」が中心です。

● 播種

土壌内には播種前に水分を確保してください。播種時期については、ニンジンの品質に大きく関わってきますので、品種に応じた播種を行い、特に早播きは、品質の低下を招きますので避けてください(表①参照)。

播種量は、品種・収穫時期によって変わります。畝間は70〜75センチとなり、2条播きが主流です。年内の収穫の場合は株間7〜8センチ、年明け収穫の場合は株間5〜6センチが目安となります。

● 施肥

基肥はJAの栽培基準に基づき、播種7日前までに施用します。

① 発芽〜本葉3葉期前後の初期成育期(播種〜20日前後)、② 本葉4〜7葉の根形成期(30日〜50日前後)、③ 本葉8枚以降の肥大充実期(70〜110日前後)の3段階に分けられます。

初期の盛んな生育と、揃った根形を確保するためには、播種前後の圃場の水分確保が必要です。水分は、発芽の良否や収量を大きく左右するため、水の確保(乾燥防止など)が重要なポイントとなります。

根形成期は、その後の肥大・充実に備えた重要な時期で、最も水分と肥料を必要とする時期でもあります。肥大充実期においては、地上部(茎葉)の過繁茂による根の肥大不足、根色の落ちを招かないよう、根形成期から圃場水分、肥料養分が徐々に切れてくる生育が望まれます。そのため、排水が良い圃場への作付け、あるいは排水対策などにより、余剰水分を圃場に滞水させないなどの管理を行うてください。

● 土寄せ

土寄せは、生育初期(本葉5枚前後)の茎葉と根の境界部分を保護するの

● 圃場準備

ニンジン

● 作型と品種

品種の選定に当たっては、品種特性や収穫時期を考慮して行ってください。

表② 苗床1a当たりの施肥量

肥料名	施肥量
完熟たい肥	200kg
キングシェル	10kg
苦土重焼燐	5kg
ジシアン有機特806	5〜10kg

基肥と追肥を合わせた標準的な施肥量は、窒素成分量で早生品種が20キ、中早生品種が20キ、晩生品種が25キとします。基肥と追肥の割合は品種に応じて変更します(基肥はピクセルで60〜70%、ブランドームで55%。アントシアンフリーの品種「ファイター」では、肥料切れすると花蕾が白くなるため、たい肥等を投入します。カリ過剰ほ場では、組織内べと病の発生が多くなるため、L型ジシアンなどを利用してください。

表③ ブロッコリーのべと病に登録のある殺菌剤

農薬名	使用時期	希釈倍数	本剤の使用回数
ランマンフロアブル	収穫3日前まで	2000倍	3回以内
レーバフロアブル	収穫7日前まで	2000倍	2回以内
ダコニール1000	出蕾前ただし、収穫21日前まで	1000倍	2回以内

4月の分析経過について	
合計4点	
残留農薬分析点数	多成分一斉分析
	ミツバ 1点
	春ブロッコリー 1点 (インショップ)
	ズッキーニ 1点 (インショップ)
※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。	
土壌診断点数 合計46点	

● 病害虫防除

べと病は、毎年発生する圃場や病害に弱い品種では、花蕾ができる前に予防的にランマンフロアブルを散布しましょう(表③、写真①②参照)。

また、生理障害として茎の部分がケロイド状に褐変する「ホウ素欠乏」は、土壌中にホウ素が十分あっても、乾燥が続くと発生しやすくなります(写真③)。



写真③ ホウ素欠乏



写真② べと病による内部褐変



写真① べと病

表① 秋冬ニンジン 部会指定品種一覧表

指定品種	播種時期	収穫適期	特 性
愛 紅	7/25〜8/5	11月上旬〜12月下旬	極早生品種。遅く播いても早どりできる。しみ症が増えるため7/25前には播かない。黒葉枯病に弱いのでZボルドー等での予防が必要。年内に収穫を終わらせる。
彩紅5寸	8/1〜8/10	12月上旬〜3月上旬	甘皮がはがれにくく、洗浄時間が長くなる。土寄せは十分に行う。
らいむ5寸	8/5〜8/10	12月上旬〜3月下旬	初期生育が劣ると、なで肩になりやすいので基肥中心の施肥設計を行う。
ベーター 441	8/1〜8/10	12月上旬〜3月上旬	根色は濃い。M・L中心で揃いがよく裂根が少ない。年明け出荷については、年内に十分に土寄せを行う。
ベーターリッチ	8/1〜8/10	1月上旬〜2月 末	株間は、5cm程度の密植にする(1本当たりの肥料吸収を抑え、裂根を減らす)。
準指定品種	播種時期	収穫適期	特 性
れいめい	8/1〜8/10	12月上旬〜1月下旬	葉は強く、立性で黒葉枯病に強い。土寄せを行う(吸い込みは、並)。
愛 美	8/1〜8/10	12月上旬〜1月下旬	愛紅と比べて樹の上がり遅い。年明けでも機械での収穫が可能。
愛 華	8/1〜8/10	12月上旬〜1月下旬	シミに強く、秀品率が高い。

で重要です。この部分に障害が残ると、後に「エクボ」の発生の原因(他に、乾燥・高温・強風)となります。また、年明けに収穫を行う場合は、凍障害を防ぐため12月上旬までに行います。